

Quarterly Journal of Seismology

Vol. 46

報 時 震 驗

第 46 卷

昭和 57 年 3 月

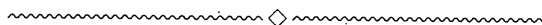
氣 象 庁

Published by the Japan Meteorological Agency
Tokyo

March 1982

第46巻 総目次

市川 政治・神林 幸夫： $P\sim F$ による地震規模の決定.....	1
気象庁地震課・三島測候所：1980年6月29日伊豆半島東方沖の地震 とその前後の群発地震活動調査報告.....	7
気象庁地震課データ処理係：震央地域名の自動命名.....	33
市川 政治：気象庁における地震定常調査業務の変遷.....	39
市川 政治：L-ADESS地震端末による地震データ処理.....	47



Quarterly Journal of Seismology

Vol. 46

Contents

M. Ichikawa and Y. Kanbayashi: Determination of Local Earthquake Magnitude Using $P\sim F$	1
Seismological Division, JMA and Mishima Weather Station: Report on the Earthquake of East off Izu Peninsula, June 29, 1980, and Some Related Problems	7
Seismological Data Processing Section, Seismological Division, JMA: Automatic Regionalization of Epicenters of Earthquakes Occurring in and near Japan	33
M. Ichikawa: Note on the Automatic Processing of Seismological Data in the Japan Meteorological Agency	39
M. Ichikawa: A System for Telemetering and Processing of Seismic Data in the Japan Meteorological Agency	47

験震時報投稿規定および投稿の手引き

験震時報は全国気象官署の職員が行なった気象庁の地象業務に関連する分野の研究・調査を掲載し、原則として年4回刊行する。内容は論文・報文および雑報である。論文は新しい知見を含むもの。報文は論文と比較して調査・資料的傾向のあるもの。雑報には寄書・短報・速報・討論・著作目録・正誤表を含む。

原稿は投稿規定と投稿の手引きに従って作成する。不備な原稿、次の投稿規定に沿わぬ原稿は返却することがある。

1. 他誌に掲載したものをそのまま再投稿してはいけない。また、他誌に掲載したものの続編形式にはしない。
2. 原稿の本文は和文とする。和文は原稿用紙に読みやすく書く。アブストラクト等の英文はなるべくタイプライターを使う。
3. 表題は和文と英文で書く。
4. 著者名は漢字とローマで略さずに書く。所属官署名は和文で書く。
5. 論文には英文アブストラクトを付ける。英文アブストラクトは別紙に書く。
6. 図はトレーシングペーパーに墨や製図用インクではっきりと描く。また、赤・黄等の紙や方眼紙、リコピーの用紙およびボールペン・サインペン等を使わない。
7. 図表の表題・説明は論文の場合原則として英文で、その他の場合和文で書く。図の表題・説明は別紙にまとめて書く。
8. 本文の末尾における参考文献は、原則として次の形式に従って列記する。

雑誌——著者名(年):表題, 雑誌名, 巻数, 号数(省略してもよい), ページ~ページ。
単行本——著者名(年):書名, 第何版, 発行所, 総ページ pp. 数. または引用ページ。

(例)

- 久野 久(1958):大島火山の地質と岩石, 火山, 第2集, 3, 大島特別号, 1~16.
Gutenberg, B. and C. F. Richter(1942): Earthquake Magnitude, Intensity, Energy and Acceleration, Bull. Seism. Soc. Amer., 32, 163~191.
竹内 均(1966):地球物理学(坪井忠二編), 第1報,

岩波書店, 67~71.

Jeffreys, H. (1959): The Earth, 4th ed., Cambridge Univ. Press, 108~113.

9. 著者には別刷50部を無料で送付する。
10. 原稿送付先は気象庁地震課
原稿を作成するときは、次の投稿の手引きの各項の趣旨に沿うこと。また、原稿提出前には以下の各項に沿って必ず原稿を点検する。

1. 本文

- 1.1 編集・印刷の便宜上400字詰の原稿用紙を使う。
- 1.2 図表用のスペースを本文にあけておかない。
- 1.3 数式は2行取りに書き、数式の文書・記号をはっきりと説明する。
- 1.4 誤まりやすい英字・ギリシャ文字・ベクトル記号にはフリガナを付け、大文字・小文字の別を示す。添え字は判別出来るようはっきり書く。
- 1.5 暦年には原則として西暦を用いる。
- 1.6 人名の敬称は原則として省略する。

2. 表題・アブストラクト・はしがき

- 2.1 表題は具体的に内容をよく伝えるものであること。
- 2.2 英文の目的・仮定・方法・結論等を明確に書き、次の諸点と留意する。①表題をそのまま使って第1行を書き始めない。②図・表・式・文献の番号を引用しない。③第三者の立場で書き、IやWeを用いない。
- 2.3 はしがきには、本文の目的・方法・意義・他の研究との関連等を書く。

3. 図表

- 3.1 図表の数は最小限にとどめる。
- 3.2 図表のそう入箇所を本文の欄外に記入する。
- 3.3 図表中の文字・記号等をもれなく説明する。また、必要な単位は必ず付ける。
- 3.4 製版後、図の修正は不可能だから注意する。
- 3.5 原図の大きさは印刷時の2~3倍(線拡大率)くらいがよい。図に記入される英字・数字は印刷時の大きさが1mm、漢字の場合は1.5mm以下にならぬようにする。

昭和57年3月20日発行

編集兼発行人 気 象 庁
東京都千代田区大手町1-3-4

印刷所 株式会社 双 文 社
東京都文京区本郷1-14-8